

## 第23回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和2年2月26日（水）に、第23回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1階多目的室 1で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、訪問看護師、薬剤師、理学療法士、心理士など参加され合計27名の参加者となりました。

当院の緩和ケアセンター三好看護師長より開会の挨拶があり、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

### 事例：「最期まで治療を諦めなかった AYA 世代の終末期絨毛がんと家族の関りを通して」

山口大学医学部附属病院 泌尿器科 山本 義明先生  
山口大学医学部附属病院 看護部 大上 芙美代先生

グループ討議では、様々な視点から活発に意見が出され、参加者の方々からは、「ほかのスタッフと緩和ケアや看護について話すことができ良かったです。また参加したいです」「緩和ケア＝積極的治療の終了の印象があった。ただ、メディカルスタッフの取り組みはすばらしいものだと感じました。お疲れ様でした」「この研修に参加させていただきありがとうございます。次回また時間があれば参加したいと思います」などの意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

### 《検討会風景》



